

里地

●伝統的な農地・農村は多様性に富んだ生物の生息空間

我が国の伝統的な農村は、農地を中心として多様な環境をもっており、多くの野生の生きものが生活する場所にもなっています。残されている屋敷林や、かつての農用林・ため池などは、農村における生物の生息空間をネットワークさせるための拠点として位置づけられます。

農村にかつて普通に見られた様々な自然環境。これらの自然環境が組み合わさって、二次的ながらも質の高い生態系が形成されている。



水路



ため池



石垣



畦畔



舞岡公園 谷戸はかつては身近に見られた農的環境であり、二次的ながらも質の高い生態系が機能している。舞岡公園では、そうした谷戸の自然を都市公園として確保し、市民参加のもと保全・復元している。

(写真提供：舞岡公園を育む会)

●谷戸の自然環境と農的環境を守る

神奈川県横浜市南部に位置する舞岡公園約30.6haは、宅地化が進み谷戸が次々と消えていくなかで、身近な自然を残すためにつくられた公園です。都市部にありながら、現在もホタルやトンボ、タヌキやノウサギなど、多くの生きものが暮らしています。

この公園内には「保護区域」約7haと「田園体験区域」約3.4haが設けられており、「保護区域」では立ち入りが禁止され、「田園体験区域」においても犬などのペット類の立ち入りを規制しています。公園に暮らす野生の生きものを守るためです。「田園体験区域」は、横浜市から委託を受けた市民団体により管理運営されていますが、水田耕作・畑作、雑木林の管理他、自然観察会やその他のイベントが年間を通じて催されています。



谷戸の湿地環境を守りながら整備が行われた早野聖地公園 既存のハンノキ林内には、生物の多様性を確保するため水溜まり・湿地や水路が設けられた。

(写真提供：川崎市環境局)

●自然素材と市民参加

神奈川県川崎市麻生区の早野聖地公園(園)では、平成9年度の自然共生型地域づくり事業(環境庁補助事業)として、かつての農業用ため池と地域の関わりといった歴史性を考慮して、ため池を中心とした水循環に配慮した公園域の整備が行われました。

整備には、蛇かご護岸、自然石土留め、素掘り流れ、間伐材による木道整備と、自然素材の活用が図られています。また、ハード整備と合わせて「里山ボランティアリーダー」を育成し、間伐や下草刈りなどの環境管理作業と発生材を利用した炭焼き、コンポストづくり、椎茸栽培などが行われる予定です。